

令和5年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

テーマ: 地域とふれあい、 豊かな心を育てよう

佐世保市立福石中学校
佐世保市干尽町2番10号
校長 堀川 優彦
生徒数 226名
学級数 8 (内特支2)

本年度のテーマを「地域とふれあい、豊かな心を育てよう」を定め、ウイズコロナの中で佐世保市を担う人材の育成と情操教育の充実、学力の向上を目指し、地域に生きる生徒を育てようと努めた。

1 郷土人材活用による郷土学習の推進・深化

本校では、郷土についての理解と関心を深め、自分の将来の目標を立てるきっかけづくりとして、職業講話を行った。本市出身の2名の方を講師として招き、仕事に対する考え方や必要な知識や資格などを講話していただき、将来の職業に対する意識を高めることができた。また、佐世保市の未来を担う人材育成のため、プロジェクト学習で佐世保市の魅力発信をテーマに講師の方に講話をしていただき、生徒は各学級でオリジナルTシャツを作成し、佐世保市の現状と課題を考えることができた。

薬物乱用防止教室は、6月23日に実施した。学校薬剤師の先生が、3年生に対し講話を行った。外部講師の専門的な話から、生徒たちは薬物乱用の恐ろしさを強く実感した様子であった。



2 郷土人材招聘による情操の涵養

今年度は新型コロナウイルス感染症の五類移行に伴い、地域から人材を招き、触れ合いの中で学習することができた。

2年生は、11月15日にごん教育講演会を佐世保共済病院の先生を招き講話を行った。がんとはどのような病気か、治療方法、がん患者の気持ち、AYA世代のがんの特徴と課題について、深く考えるきっかけとなった。

DV予防講演会も9月27日に2年生を対象に行い、今まで身近な問題として考えていなかったDVを考える機会となり生徒たちは大いに感銘を受けていた。

3 生徒の自律の促進

今年度はコロナ禍での制約が徐々になくなり、以前の活動が少しずつできるようになった。その中で、生徒の心情面を盛り上げ、情操を豊かにするような取組を目指した。

部活動では、生徒たちは精いっぱい頑張りを見せ、成果をあげた。特に女子バスケットボール部においては、九州大会へ出場することができた。九州大会への進出を記した横断幕を掲示し、学校への誇りを高め、地域に成果を知っていただくものとなった。

スポーツ面だけではなく、文化面での頑張りも目覚ましかった。様々な作品が県や九州でも入賞し、情緒面での成長がみられた。

学力向上のため、年間を通したweb教材を用いた学習プリントの活用を行った。基礎基本を鍛えるための取組が行われ、働き方改革を進めつつ、個別最適な学習を推進することができた。

また、12月に本校独自で2回目の「心の状況調査」を行った。結果の分析を生徒に投げかけることで、生徒が自分たちで課題を解決しようとする姿勢を育てた。

さらに、本校の生徒会スローガンの横断幕の作成を行い、生徒の学校への愛校心を育てる取組を行った。校訓、生徒会スローガンの横断幕は校門横に掲示し、保護者や地域の方々への理解、協力をさらに推進し、地域に根差した学校教育の充実を図っていく。

今年度から学校での活動が平常に戻り、今までの取組を行うことができるようになった。その中で、本事業のお陰で外部講師を潤沢に呼ぶことができ、校内外の環境を整備することで情操を涵養することができた。その結果、生徒たちは活気あふれる学校活を送ることができた。

